

繊維状粒子自動測定器の開発等の経緯

- 1970年(昭和45年)代後半に米国でFAM-1型が開発された。
- 1980年(昭和55年)代にFAM-1型が米国GCA社から市販された。
- 1986年(昭和61年)6月20日付け米国OSHA、29CFR Part 1910 and 1926「アスベストに関する最終規則」でFAM-1型はPCMと「同等」な「他の方法」として認められた。
- 1989年(平成元年)9月から1993年(平成5年)3月の期間に環境庁が「石綿測定法検討会」においてFAM-1型及び後継機種のFM-7400型について調査研究を行ない、導入について検討を行ない、導入のための原案を作成した。
- 1991年(平成3年)から1995年(平成7年)にかけて郵政省通信総合研究所で石綿状浮遊粒子の偏光式リアルタイムモニタ装置が開発され、1995年(平成7年)に(株)エスコム(現(株)アエモテック)からARM型(現DAECOM型)が発売された。

- 2006年(平成18年)10月にハットリ工業でFNM-ME型が開発・製造され、大塚刷毛製造(株)から発売された。
- 2007年(平成19年)6月に柴田科学(株)でF-1型が開発され発売された。
- 2007年(平成19年)10月に米国MSP社でFM-7400型の後継機種としてFM-7400AD型が市販され、日本でも発売された。
- 2007年(平成19年)11月から2008年(平成20年)8月に厚生労働省で「建築物の解体等における石綿ばく露防止対策等検討会」が開催され、その報告書で「リアルタイムで石綿濃度を測定することは、ばく露防止対策の有効性の確認、気中の石綿繊維数濃度の経時変化に応じた対応、ばく露状況の記録等を実施するに当たり有効なものであり、法令等に定める方法として取扱うためにも、具体的な手法、精度管理手法、基準等の開発が必要である。」としている。

- 2008年(平成20年)から2009年(平成21年)に(社)日本作業環境測定協会で「石綿含有建材を使用した建築物等の解体・改修工事における石綿飛散状況のチェックのためのリアルタイム計測機器導入のための調査研究」がFM-7400AD型,DAECOM-S型、FNM-ME型、F-1型を対象に実施された。
- 2010年(平成22年)6月環境省の「アスベストモニタリングマニュアル(第4.0版)」が公表され、その中の解体現場において迅速に測定できる方法の紹介として、繊維状粒子自動測定器による測定が掲載された。